

編集後記

今年は記録的な暑さが続いています。大学も新聞によると新たな大学院が発足するそうで、ホットな話題が繰り広げられている一方、その詳細については誰もが知らないと言うのも現実です。大学内にいてもそうなのですから、学外の方また学生やご家族の方にとってはなおのことと思います。混乱を避けるためには正しい情報を伝えることが重要と思い、今年の歯学部ニュースも昨年と同じような企画になってしまったことをお許し下さい。それだけ今大学がホットな戦いを繰り広げている現状を察していただけましたら企画を行ったものにとって、少し気が楽になります。

原稿を集めていただいた先生方、大変ご苦勞さまでした。執筆をお願いされて気持ちのいい人は少ないでしょうから、嫌な仕事だったと思います。こうした多くの方々の苦勞があって歯学部ニュースは作り上げ続けているのですと一言最後に付け加えさせていただき、私の編集後記とさせていただきます。

(歯学部広報企画委員 瀬尾 憲司)

「編集委員」というと聞こえがいいのですが、実際に私がやったのは原稿を依頼し、書いてもらったものを集めて瀬尾先生のところへ持っていくという「伝書鳩」の仕事だけでした。人影もまばらな7階の私の部屋の窓には時折、鳩が訪問して来ますが、今度は捕まえて伝書鳩になれるように仕込んでやろうかと思う今日このごろです。ありがたいことに私が原稿を依頼した方々は締切りをきちんと守って下さったのでとても助かりました。この場を借りてお礼申し上げます。

(天谷 吉宏)

以前から思っていることだが、歯学部ニュースは必要なのだろうか？。雑用で何かと忙しい昨今、原稿を依頼された方々には、お気の毒と言うしかない。義務感という名の惰性ではなく、必要性について真剣に考えてほしいものである。

(安藤 雄一)

無事歯学部ニュースの平成12年度第1号をお届けする事ができた。編集委員のひとりとしてほっとすることができた。格下編集委員の私の仕事は基本的に原稿の依頼と収集であり、私をほっとさせてくれたのは何を隠そう、ひとえに大変忙しい中、私からの原稿の依頼を快く受け入れて下さり、期日までに原稿を寄せて下さった先生方たちである。この場を借りて先生方には厚く御礼を申し上げます。また、委員長長の瀬尾先生には心からお疲れ様でしたとねぎらいたい気持ちです。歯学部ニュースの編集委員はいつからか、助手に就いた時期の順に持ち回りで担当するようです。その回転は今後速くなるのか、遅くなるのか？予想だにできません。(泉 健次)

高校野球も終わりシドニー五輪があと間近という時期が本誌の締め切り。原稿集めも佳境に入っている。発行時期にはシドニー五輪も終わっているのだろうか。涼しい日々が想像できない今日この頃である。

(高田 真仁)

今年の前半はいつにもましていろいろなことがありました。後半もめまぐるしくかわることでしょう。かわらないのは今年も夏休みがとれなかったことぐらいかな…。

(本間 克彦)

歯学部ニュース

平成12年度第1号 (通算92号)

発行者 新潟大学歯学部企画広報専門委員会

編集責任者 瀬尾 憲司

編集委員 天谷 吉宏、安藤 雄一、泉 健次、
高田 真仁、本間 克彦

印刷所 (株)プライムステーション